

# 令和5年度 利用者懇談会 於：唐木田図書館

日 時：令和5年12月9日（土） 午前10時30分から正午まで

場 所：からきだ菖蒲館 会議室2

出席者：利 用 者 3人

図書館職員 5人

図書館長、企画運営担当1主査、永山図書館長兼唐木田図書館長、唐木田図書館職員、企画運営担当1職員（1人）

---

## 1. ボードゲーム体験（30分）

利用者3人、図書館職員4人で2種類のボードゲームを体験

## 2. 図書館について意見交換（55分）

### 内容（要旨）

- (1) 中央図書館の紹介
- (2) 図書館について意見交換
- (3) 閉会

#### (1) 中央図書館の紹介

図 書 館： 利用者懇談会の開催にあたって、録音と利用者懇談会の様子を写真撮り、ホームページに掲載する予定である。ご了承願いたい。

はじめに中央図書館ができたことによる影響について、お話しする。多摩市は図書館が7館あり、旧本館・関戸・永山図書館の開架の蔵書数が約10万点規模、残りの4館（地域館）は蔵書数が約4万点規模であり、突出して一番蔵書数が多い図書館はなかった。そのような中、中央図書館は蔵書数を旧本館時の倍以上の冊数である開架のフロアで25万冊を目指している。そのため中央図書館は、入門書から専門書まで資料が揃い、中央図書館に行けば調べものや読書ができる場所になっている。また中央図書館の2階には、活動室やラーニングコモンズ、おはなしのへや、サテライトカウンターがあり、おしゃべりしながら本を選べるフロアとしているため、イベント時も声や音を出すイベントができる。やりたいことを実現できるような様々な諸室があることが中央図書館の新たな特色である。また中央図書館は4階建てであり、市民の方が利用する開架エリアは、1階と2階にあたる。1階は静かなフロア、2階はおしゃべりしながら本を探したりできるフロアであり、コンセプトを明確に分けたため、静かに読みたい方と話しながら勉強したい人がうまく住み分けしながら利用できる。現状、大きなトラブルにはなっていないため、フロアごとにコンセプトを分けてよかったと考えている。

中央図書館の利用状況について、来館者数は、中央図書館がオープンした7月1日・2日は各日約11,000人の来館者に来ていただいた。その後7月の土日祝日が1日当たり5,000人来館。8月以降は、土日祝日は一日当たり約4,000人が来

館している。一方で平日は、7・8月が一日当たり約3,000人の来館、9月以降は一日当たり約2,000人が来館しており、継続的に来館し、利用してもらえている状況である。

旧本館と中央図書館で利用状況を比較すると、去年の8月と今年の8月で貸出者数は倍になっている。その内訳をみると10歳未満～20代の若年世代の貸出冊数が3～4倍になっている。また30、40代を比較すると、2～2.5倍貸出者数が増えている。以上のことから若年世代の利用率が増加していると分析でき、子育て世代である30、40代にも利用してもらっている。図書館の課題であった若年世代や働いている世代の利用について、中央図書館がオープンして実現できている。以上で中央図書館の紹介とさせていただく。

次に唐木田図書館について、地域館4つの中で二番目に利用が多いのが唐木田図書館である。唐木田図書館は、定例の展示やイベントの他、新たなイベントにも力を入れている。

利用者懇談会でしか来館しない方もいるかと思われる。ぜひ感想等を伺いたい。

利用者A： はじめに中央図書館について、ステッププラザの本の展示や賑やかなフロアである2階のコンセプト、カフェもあり中央公園のロケーションを活かしている。活動室も団体の利用ができ、俳句の会で利用できる。ただガラス張りのため、利用しづらい面もある。中央図書館の建設は、若者の学習環境の整備に大きな効果がある。ただ土日は混んでいるため、中央図書館を利用したくない。中央図書館を利用するのであれば、ゆっくり本が読める環境の時に行く。中央図書館の休館日が少なくなった点は、月に2回気を付ければいいためとても利用しやすい。開館時間についても旧本館から延長されて、仕事している人も帰りに寄ることができることは利用しやすくいい点である。

一方で唐木田図書館は、祝日が休館日になっている。また開館時間も17時までとなっている。併設しているコミュニティセンター（からきだ菖蒲館）は、月に2回しか休まず、21時30分まで開館している。パートを採用して、ローコストで開館していると思う。開館すれば人件費がかかるのは、実情としてあると思うが、例えば、貸出を制限して開館するなどコストを下げる工夫はあるのではないか。何とか工夫をして唐木田図書館を祝日も開館してほしい。

からきだ菖蒲館は子どもたちの勉強スペースが少ない。現在はギャラリーを勉強スペースにしているが、本来は勉強スペースではない。かるがも館は壁際全部を読書コーナーにしてあり、利用しやすい。試験前になると席が埋まってしまうため、図書館にももう少し勉強スペースを確保してほしい。勉強スペースでは、コロナ渦で行っていたパーティーションによる仕切りを継続して行った方が勉強しやすい。中央図書館ができたことによって、からきだ菖蒲館の利用者が少し中央図書館に流れたのではないか。これは、需要があるから中央図書館が若い子たちに利用されるのであって、貸出冊数の増加という話を含めて、そのような勉強できる場所ができたというところが、多摩市全体の子どもたちの教育水準のため

にも機能しているのではないか。

利用者B：（鶴牧地区にお住まいの）子どもが中央図書館に行く場合は、自転車が多いか。

利用者A： そう思う。他の施設の駐輪場を使えば問題はないが、中央図書館の駐輪場は狭い。話が戻るが、何より中央図書館の時間と休館日が少ないことは文句ない。

図書館： 先程中央図書館の活動室の利用について、ガラス張りで利用しにくいという話があったことに関連して、ロールスクリーンが下げられるので、是非活動室を使ってほしい。

また、唐木田図書館の開館時間の延長についてお話したい。

利用者A： コミュニティセンターは、21時30分まで開いているが、図書館は主に20時くらいまででいいと思っている。利用者が少ないのと電気代や人件費がかかるため、ただ開館すればいいというわけではない。

図書館： 基本、図書館は17時を過ぎると利用者が減少する。地域館だと館内に数人くらいしかいないという状況があることから地域館の開館時間は見直しを行った。あと祝日は地域館を開館した方がいいか。

利用者A： 是非開館してほしい。コストが問題なのであれば、例えばボランティアの募集等してもらえれば、お手伝いする。

図書館： 人件費の問題よりも、職員のローテーションの問題がある。唐木田図書館は毎週月曜日及び祝日が休館であるが、定期的な休館日を増やし祝日は開館するなど組み合わせ次第では可能ではないか。毎週月曜日の休館に加えて、木曜に月2回休館をして祝日は開館するなど。あとは、利用を制限して開館するやり方もある。ただ、祝日のみサービス内容を制限するとかえって利用者が分かりづらくなる点がある。

利用者A： やはり中央図書館の開館時間が増えたことはいいことである。多摩市は違うと思うけれど、公務員は民間と比較して、相対的に仕事をしない。人件費削減のために、祝日も開館をすることや開館時間を延長することに対して消極的な考えが今まである。週休2日休みを取った上で、ローテーションで工夫して解決できないものか。

図書館： 一般的に市役所は、月から金までであるが、図書館は既に職員が交代して土日に関しては皆ローテーションで勤務している。合わせて祝日開館するということであれば、やはり他の休館日を増やすとか、そういったところを天秤にかけて、

検討していく。

利用者B： 休館というと、正月の休みについてはどう思うか？

利用者A： 市の施設は、公共施設全部休みであるから難しい。個人的には、大みそかや三が日は仕方がないにせよ、年末年始の休館の中で1日は、開けてほしい。拠点館だけでも開館しているとありがたい。

図書館： 現状、基本28日までは開館している。一般的には市役所と同様に12月29日から1月3日までは休みとなる。企業は長い正月休みを取っていたりするが、市役所は最低限の正月休みをとっているため、さらに開館するのは難しい。

利用者A： 社会的な習慣もあるため、簡単には言えないが、個人的には、図書館が開館していないと困る。

図書館： その他、祝日の利用状況を見ると一般的に土日が多くなっている。土日だと土曜日の方が、利用者が多い。祝日は土曜日と祝日で比べると祝日の方が少ない。祝日だからといって、一番図書館の利用が多いわけではない。実際に正月休みも開館するにあたっては、利用状況を見ながら、費用対効果を鑑みて検討していく。

利用者C： 閉館時間について、東寺方図書館を利用しており、東寺方図書館は毎週木曜日と祝日が休館している。(祝日開館していないことは)問題ないと思っているが、それよりも問題は多摩市の財政が悪くなり、地域図書館が閉館することの方が心配である。もし金銭面が問題ならば地域図書館も休館日を増やしてもいいから、地域館を残してもらいたいと思っているため、祝日開館の要望は全くない。

話が変わるが、本について要望する。唐木田図書館に所蔵している「古典ラテン語文献」について、これは辞書ではなく文法書である。いい文法書であるが、これは館内利用だけのため、この本を読みたい場合唐木田図書館に来ないと借りられない。辞書であれば納得できるが、文法書であるため、禁帯ではなく一般書と同様に借りられた方がいいと思う。先程唐木田図書館の職員にこの本の利用状況を確認したところ、2007年から唐木田図書館に所蔵しているが、1回しか借りられていないとのことであった。できたら利用状況等を踏まえつつ、禁帯ではなく借りられるように見直して変えてもらいたい。同じような禁帯本がたくさんあると推測されるため、定期的に禁帯の見直しをしてもらいたい。

図書館： 禁帯でも要望があったら他の館に移してそこで館内利用をしてもらうなど、そういう方法もできるのではないか。今回のように、禁帯であっても実際に要望をいただき、蔵書状況を見て禁帯を外すこともある。ただ、禁帯資料を他の館に移すことは、その館の利用者が見ることができなくなるため、現在はしていない。

利用者C： 実際に「古典ラテン語文典」は、2007年から1回しか要望がなかった。

図書館： 要望があれば随時見直している。本の購入時に確認し判断するが、ご要望をいただいた際には、内容を見て、辞書として利用できるか、もしくは貸出可能資料として、ご自宅等で利用してもらうのがいいのかを改めて検討する。そのためには、現状貸出状況等をみて判断することは難しいため、要望を挙げていただき、蔵書毎に個別で検討する。

利用者C： この本の場合だと買う時に判断して、判断が間違っていたということになる。要望としては、「古典ラテン語文典」を貸し出せるようにしてもらいたい。また他にも禁帯であっても貸出した方がいい本がたくさんあるのではないかな。

図書館： おっしゃる通り、要望を受けることはたまにある。受入後の蔵書について、貸出回数とかの利用状況を一冊一冊確認することまでは難しいため、書架整理などの際に職員が、実際の棚見て、禁帯資料の確認や判断をすることが必要である。

利用者B： 要望するときは、紙（「やんぼとくん BOX お客様の声」）に書くのか。

図書館： 禁帯の検討をしてほしい資料をそのままカウンターに直接お持ちいただきたい。

利用者B： カウンターに申し出ただけでは、図書館の共通の認識にならないのではないかな。紙で残す必要がある。私は正式な返信が返ってくる「市政への提言」に書いて、意見表明とかしているが、「やんぼとくん BOX お客様の声」だと返信がないため言っぱなしになる。私は何回も要望している通り、ボードなどに貼りだしをして、ボードを見れば他の人の意見が分かるようにしてほしい。個別に発信しても、職員間の共通認識にはならないのではと思う。

図書館： いただいた蔵書に関する要望は、図書館のカウンターとのやり取りであるため、要望があれば職員間で検討するが、用紙に書いていただいてもどちらでも構わない。どちらにしても検討する。先程お話があったが、12月2日に行った利用者懇談会で、よくスーパーなどにあるご意見を書いて回答を提示する方法をした方がいいのではないかとご意見いただいた。今日は即答できないが、ご意見は承っている。

利用者C： 二つ目の要望として、図書館のホームページについて「このサイトについて」というページを見ると、そこには「すごく使いやすくバリアフリーでだれでも使いやすい」と記載がある。だれでも使いやすいことは大事で、日本語の読める人にとっては使いやすいと思うが、翻訳されていないため、日本語を読めない人に

としては使い物にならない。図書館システムは、株式会社サン・データセンターが提供しており、少しだけ多言語化対応されている。その多言語化対応が中途半端で使い物にならないため、多言語化対応をしっかりとやってもらいたい。

利用者B： 障害福祉課で「合理的配慮に関するアンケート」を行っている。市民がどういふ風な体験をしたか、それを市の方へ提出するアンケートで、たまたま中央図書館で高齢の方が、新聞コーナーで杖をついて立って読んでいたので、新聞コーナーに座って読めるコーナーを作してほしいと要望したところ、すぐに職員が作ってくれた。そのような体験を書いてアンケート提出をした。ただその回収箱が出張所では扱っておらず、福祉センターや市役所などしか回収箱の設置がない。それ自体が合理的配慮に欠けると感じた。多言語化対応にも通ずる点があるので、市役所全体で注意してほしい。

利用者C： 先程話をした多言語化対応について、解決策がある。多摩市役所の公式ホームページは多言語化対応されている。Googleの自動翻訳を使っているが、外国人でも使いやすいホームページになっている。先程申し上げた解決策というのは、多摩市役所の公式ホームページで翻訳をして、そのまま多摩市立図書館ホームページのリンクに入ると、翻訳されたまま図書館ホームページを利用することが出来る。サン・データセンターに、今の多摩市役所の公式ホームページの翻訳方法にしてもらうよう依頼をして、時間がかかるのであれば、多摩市の公式ホームページで翻訳してから、図書館ホームページに入れば、翻訳された状態で利用ができることを案内した方がいい。

図書館： 教えていただき感謝する。実際にホームページを確認する。システムの更新はまだ先のため、次の大きな改修まで時間がかかる。

利用者C： 技術的には大きな改修ではない。

図書館： まずはすぐにできる案内を行う。

利用者C： お知らせをすれば利便性が向上する。カウンターで外国人に聞かれたら、多摩市役所の公式ホームページから、英語に変えて図書館ホームページを利用すると、ちゃんと案内などが詳しく書かれていることも英語になる。

利用者C： 3つ目の要望として、多摩市の図書館の図書に関する情報をオープンデータとして開放してもらいたい。去年・一昨年も意見として出したが、中央図書館が開館したところで、改めて検討していただきたい。

利用者B： 他にそのような取り組みをしている図書館があるか？

利用者C： ある。国会図書館や数は少ないが地方図書館とかもやっている。多摩市もオー

プンデータ化で人口を出している。一年に一回、半年に一回などの頻度でオープンデータ出してほしい。本当の利用価値や本の推移がすごくよくわかりやすいと個人的には思っている。

図書館： お時間が迫っているため、最後にご意見があれば伺いたい。

利用者B： （現物を見せながら）中央図書館で見た思考図がとてもよかった。

図書館： ティーンズ向けの企画展示で、今回は思考図をテーマにした。思考図は職員が作成した。

利用者B： 1枚ずつ分かれた思考図もある。11月頃見つけて改めて12月に問合せしたら、その時には企画展示が終了していた。子どもから大人までそれぞれの考え方を整理できるから大変便利である。

図書館： 現在は好評だったため、展示とは違うところに置いている。

利用者B： こういう考えを整理する方法があるのかと新たな発見であった。自分なりにどの思考図を使ってやるかっていう、これはすごく便利である。是非これを他の図書館でも展示してほしい。また緑色で印刷されているのがよりインパクトがある。白黒だと目立たない。

利用者C： ホームページでダウンロードできると良い。

利用者A： 中央図書館のカウンターにあるのか？

図書館： 2階のティーンズコーナーに設置している。図書館で本の企画展示を行っていますが、その展示を見た方にしか伝わらないため、極力ブックリストを作成して、ホームページに公開している。その効果もあって、貸出に繋がることもある。公開できるかを確認して、ブックリストなどと同様にホームページで公開できるよう検討したい。

利用者A： ティーンズコーナーに置くのは、すごく意味があると思う。

図書館： ティーンズコーナー企画展示であったため、ティーンズコーナーに用紙も含めて全部置いてある。

本の企画展示も色々工夫している。例えば、この間までサテライトカウンターで児童虐待関係の展示を行っていたが、本の他にも児童館や子ども家庭支援センターなどのメッセージを展示した。他にも、今2階の入り口で行っている紙芝居

の展示は、12月7日の「世界紙芝居の日」に合わせて展示している。紙芝居コーナーは、児童エリアの奥まった位置にあるため、それを入り口付近まで持ってきて展示をし、更には紙芝居台も置いている。本以外のものも色々展示する場所ができ、紙芝居も結構借りてられている。中央図書館になって展示スペースが増えた関係で、やりたい展示などを工夫してできるようになったと感じている。

利用者B： 展示でいうと、50周年に合わせて有識者のメッセージを書いたものがあつたが永山図書館で展示してあつたものが無くなつていた。

図書館： 現在、巡回展示をしている。

利用者B： 50周年の有識者のメッセージ展示もすごくよかつたので、巡回展示で市民全体に行き渡ることは良いことだと思う。

図書館： 時間となつたため、利用者懇談会を終了する。参加された皆様は、図書館でお会いする機会があるため、声かけていただき色々アイデアを貰えればと思う。

利用者B： 最後に1つ言いたいことがある。最近よく耳にする「ワンダーランド」という単語が頭から離れない。意味は、「わくわくする場所」という意味かと推測されるが、中央図書館は、「図書館ワンダーランド」になつてほしい。だから「知の地域創造」よりも「図書館ワンダーランド」として、ワクワクしながら図書館を利用できるようにしてもらいたい。

利用者A： 今のお話はとても素晴らしいと思う。図書館がワンダーランドのようなところになつて欲しいし、子どもたちにとつても身近にそのような施設があると刺激になり、良いことだと思う。

図書館： 図書館は勉強のために来ている、その横に本があり、普段気にしないけど紙芝居を演じている人たちがいるなど、色々なことに何気なく触れることができ、そこから関心をもって興味が広がる場になつてほしいと思っている。それは職員間で共通の認識があり、心掛けないとできないことであると認識している。今後も意識して、職員が力を入れて「図書館ワンダーランド」のような場所にしたいと思う。利用者より様々なご意見をいただくが、その対応に追われて、型にはまってしまうことがある。そこをできるだけ柔軟に考えていきたいと思っている。ご意見も聞きつつ、居心地のいい図書館にしていきたいと思っている。引き続きよろしくお願ひしたい。

時間を過ぎたため、これにて本日の利用者懇談会は終了する。

(閉会)